科目区分・科目名	専門分野：看護学概論
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	１年次　前期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員（＊印：実務経験有）	専任教員（＊）

科目目標：１．看護を構成する人間、健康、環境、看護の概念を理解できる。
２．保健医療福祉チームにおける看護の機能と役割を理解できる。
３．看護の歴史的発展を理解できる。
４．看護倫理の基本的知識を理解できる。
５．主な看護理論の概要を理解できる。

授業計画

回	内　容
１～４	１．看護の基本となる概念 （１）看護の構成要素（２）人間（３）健康（４）環境（５）看護 ２．看護の変遷　（１）看護の歴史的発展 ３．看護の機能と役割 （１）看護ケアについて（２）看護実践とその質保証に必要な要件（３）看護の役割・機能の拡大
５	４．看護の継続性と連携 （１）他職種チームの連携と継続的かかわり
６～７	５．看護の対象の理解 （１）人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味 （２）生涯発達しつづける存在としての人間の理解 （３）人間の「暮らし」の理解
８	６．看護の提供者 （１）職業としての看護　（２）看護師の資格・養成制度・就業状況 （３）看護職者の継続教育とキャリア開発　（４）看護職の養成制度の課題
９～１０	７．看護の提供のしくみ （１）看護を提供する場　（２）看護をめぐる制度と政策
１１～１２	８．看護における倫理 （１）医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理（２）看護実践における倫理問題への取り組み
１３～１４	９．看護理論　（１）主要な看護理論の概要
１５	まとめ
評価方法	筆記試験、成果物
テキスト	1　系統看護学講座　専門分野　基礎看護学（1）　看護学概論　医学書院 2　系統看護学講座　別巻　看護倫理　医学書院 3　フローレンス・ナイチンゲール著，小玉香津子・尾田葉子訳；看護覚え書 - 本当の看護とそうでない看護，日本看護協会出版会 4　ヴァージニア・ヘンダーソン著，湯槇ます・小玉香津子訳；看護の基本となるもの，日本看護教会出版会 5　手島恵；看護者の基本的責務　２０２４年版 - 定義・概念/基本法/倫理，日本看護協会出版会

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）

科目区分・科目名	専門分野：共通基本技術Ⅰ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	１年次　前期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊）

科目目標： １．看護技術の基本構造と安全・安楽・自立/自律の必要性が理解できる。

２．看護におけるコミュニケーションの意義を理解できる。
３．対象や保健医療福祉チームとの信頼関係構築に必要なコミュニケーション技術が理解できる。
４．看護における報告・記録の意義や方法を理解できる。
５．看護における感染予防の意義を理解し、基礎的知識・技術・態度を習得できる。

授業計画

回	**内　　容**	看護技術到達度評価
１～２	１．看護技術とは何か （１）看護技術の根底にあるもの （２）看護技術の特徴 （３）看護技術を適切に実践するための要素（安全・安楽・自立/自律の視点）	
３～５	２．人間関係を成立・発展させるための技術 （１）コミュニケーション技術 （２）コミュニケーション技術の実際 （３）看護と人間尊重	
６	３．安全を守る技術（安全確保の技術） （１）安全確保の基礎知識 （２）主な医療事故とその予防策 （３）医療事故発生時の対応	
７～８	４．看護における報告・記録 （１）看護における報告の意義 （２）看護における記録の意義 （３）看護における報告・記録の実際	
９～１５	５．感染防止の技術 （１）感染とその予防の基礎知識 （２）標準予防策 （３）感染経路別予防策 （４）感染性廃棄物の取り扱い （５）針刺し事故防止と事故後の対応 （６）洗浄・消毒・滅菌 （７）無菌操作 （８）看護における感染防止技術の実際	№５９　使用した器具の感染防止の取り扱い №６１　無菌操作
評価方法	筆記試験　成果物	

テキスト	1　系統看護学講座　専門　基礎看護学（2）　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 2　根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　第3版　医学書院
備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点） 事前課題・事後課題あり	

科目区分・科目名	専門分野：共通基本技術Ⅱ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	1年次　後期
単位数（時間）	1単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊）

科目目標： １．看護における観察・ヘルスアセスメントの意義が理解できる。
２．系統的なフィジカルアセスメントに必要な基礎的知識・技術・態度が理解できる。
３．対象の心理・社会的側面のアセスメントに必要な基礎的知識・技術・態度が理解できる。
４．ヘルスアセスメントに必要な基礎的知識・技術・態度を習得できる。

授業計画

回	内　容	看護技術到達度評価
1	１．看護における観察・ヘルスアセスメントの意義	
２～３	２．フィジカルアセスメントに必要な技術 （1）視診（2）触診（3）聴診（4）打診 ３．身体計測	№５１　身体計測
４～６	４．バイタルサインとは （1）体温 （2）脈拍 （3）呼吸 （4）血圧 （5）意識 ５．バイタルサインの測定方法とアセスメント ６．バイタルサイン測定の実際	
７～１１	７．系統別フィジカルアセスメント （1）呼吸・循環のフィジカルアセスメント （2）乳房・腋窩のフィジカルアセスメント （3）腹部のフィジカルアセスメント （4）筋・骨格系のフィジカルアセスメント （5）神経系のフィジカルアセスメント （6）頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメント （7）外皮系のフィジカルアセスメント	
１２	８．心理・社会状態のアセスメント	
１３～１５	９．ヘルスアセスメントの実際	
評価方法	筆記試験　実技試験（看護技術到達度評価　№５０　バイタルサインの測定）	
テキスト	1　系統看護学講座　専門　基礎看護学（2）　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 2　系統看護学講座　専門　基礎看護学（3）　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 3　根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　第3版　医学書院	

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）
事前課題・事後課題あり

科目区分・科目名	専門分野：共通基本技術Ⅲ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	１年次　後期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊）

科目目標： １．看護を実践する上で基本となる科学的思考が理解できる。
２．看護過程の構成要素と展開方法が理解できる。
３．看護における学習支援の意義や展開方法が理解できる。

授業計画

回	内　　容
１～１１	１．科学的思考と看護過程のプロセス （1）看護過程の構成要素 （2）問題解決に必要な力 （3）クリティカルシンキング （4）倫理的配慮と価値判断 （5）リフレクション ２．看護過程の各段階 （1）アセスメント （2）看護問題の明確化(看護診断) （3）看護計画 （4）実施 （5）評価 ３．看護過程の実際
１２～１５	４．学習支援に関する基礎的知識と技術 （1）看護における学習支援 （2）健康に生きることを支える学習支援 （3）健康状態の変化に伴う学習支援 ５．学習支援の実際 （1）個人を対象とした学習支援 （2）家族を対象とした学習支援 （3）集団を対象とした学習支援
評価方法	筆記試験、成果物
テキスト	系統看護学講座　専門　基礎看護学（2）　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 実践に役立つ看護過程と看護診断　ヘンダーソン・ゴードンのデータベースに基づく事例展開　三上れつ　ヌーベルヒロカワ

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）
事前課題・事後課題あり

科目区分・科目名	専門分野：日常生活援助技術Ⅰ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	１年次　前期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊）

科目目標： １．人間にとっての環境や活動・休息の意義を理解できる。
２．環境を調整する援助技術、活動・休息を整える援助技術の原理原則を理解できる。
３．対象の立場に立って環境や活動・休息を整える基礎的技術を理解できる。
４．科学的根拠に基づき安全・安楽に、生活を整える環境や活動・休息を整える基礎的技術を習得できる。

授業計画

回	内　　容	看護技術到達度評価
１～７	１．環境の意義 （１）人間と環境　（２）療養生活の環境 ２．病室環境調整に必要なアセスメントと調整 （１）病室・病床の選択　（２）温度・湿度 （３）光と音　（４）色彩 （５）空気の清浄とにおい　（６）人的環境 ３．ベッド周囲の環境整備 （１）患者に合わせた環境整備 ４．ベッドメーキング （１）リネンの種類　（２）ベッドメーキングの目的 ５．ベッドメーキングの実際 （１）準備　（２）方法 （３）留意点 ６．ベッドメーキングの実際 ７．リネン交換 （１）臥床患者のリネン交換の目的　（２）臥床患者のリネン交換の準備 （３）方法　（４）留意点 ８．リネン交換の実際	№１　快適な療養環境の整備 №２　臥床患者のリネン交換
８～１５	１．基本的活動の基礎知識 （１）良い姿勢　（２）ボディメカニクス （３）日常生活動作　（４）様々な体位 ２．体位変換と歩行の援助に関する基礎知識 ３．体位変換・歩行援助の実際 ４．移乗・移送の援助に関する基礎知識 ５．移乗・移送援助の実際 ６．睡眠・休息援助の基礎知識 （１）睡眠の種類　（２）睡眠制御のメカニズム （３）睡眠障害のアセスメント ７．睡眠・休息の援助 （１）体内時計のリズム　（２）個別性に応じた睡眠週間と援助 （３）リラクゼーション　（４）睡眠を妨げる考えや行動の修正	№１３　車椅子での移送 №１４　歩行・移動介助 №１８　ストレッチャー移送

	（5）入浴・足浴で入眠を促す援助（6）睡眠薬の使用 8．まとめ	
評価方法	筆記試験、成果物	
テキスト	1　系統看護学講座　専門　基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ　医学書院 2　根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　第3版　医学書院	
備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点） **事前課題・事後課題あり** **＊　授業終了後、看護技術到達度評価　№.１５　移乗介助、№.１６　体位変換・保持のチェックあり**		

科目区分・科目名	専門分野：日常生活援助技術Ⅱ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	１年次　前期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊）

科目目標：１．人間にとっての清潔・衣生活の意義を理解できる。
２．清潔・衣生活を整える援助技術の原理原則を理解できる。
３．対象の立場に立って清潔・衣生活を整える基礎的技術を理解できる。
４．科学的根拠に基づき安全・安楽に清潔・衣生活を整える基礎的技術を習得できる。

授業計画

回	内　　容	看護技術到達度評価
１～１５	１．清潔の援助の基礎知識 （１）清潔を保つことの意義 （２）清潔援助の効果 （３）対象の状態に応じた援助の決定と留意点 ２．清潔の援助の実際と留意点 （１）入浴、シャワー浴 （３）手浴・足浴 （４）陰部洗浄 （５）整容 （６）口腔ケア （７）洗髪 （８）全身清拭 ３．衣生活援助の基礎知識 （１）衣服を着ることの意義 （２）熱産生と熱放散 （３）被服気候 ４．衣生活の援助の実際 （１）病衣の選び方 （２）病衣、寝衣の交換	№２２　入浴・シャワー浴の介助 №２３　陰部の保清 №２５　洗髪

評価方法	筆記試験、成果物
テキスト	1　系統看護学講座　専門　基礎看護学（３）　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 2　根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　第３版　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）
事前課題・事後課題あり
＊　授業終了後、看護技術到達度評価　№２１　点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換、№２４　清拭のチェックあり

科目区分・科目名	専門分野：日常生活援助技術Ⅲ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	１年次　後期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊）

科目目標： １．人間にとっての食・排泄の意義を理解できる。
２．食事・排泄を整える援助技術の原理原則を理解できる。
３．対象の立場に立って食事・排泄を整える基礎的技術を理解できる。
４．科学的根拠に基づき安全・安楽に、食事・排泄を整える基礎的技術を習得できる。

授業計画

回	内　容	看護技術到達度評価
１～５	１．食事援助の基礎知識 （１）栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント （２）医療施設で提供される食事の種類と形態 ２．食事摂取の介助 ３．摂食・嚥下訓練 ４．非経口的栄養摂取の援助 （１）経管栄養法 （２）中心静脈栄養法	№５　経管栄養法による流動食の注入 №６　経鼻胃チューブの挿入
６～１５	５．自然排尿および自然排便の基礎知識 （１）排泄の意義 （２）対象の状態に応じた援助を決定するためのアセスメント ６．自然排尿および自然排便の援助の実際 （１）トイレにおける排泄援助 （２）床上排泄援助 （３）おむつによる排泄援助 ７．導尿 （１）一時的導尿 （２）持続的導尿 ８．排便を促す援助の基礎知識 （１）排便のアセスメント （２）便秘改善の看護ケア ９．浣腸 １０．摘便 １１．ストーマケア	№　１０　浣腸 №　１１　摘便

評価方法	筆記試験、成果物
テキスト	１　系統看護学講座　専門　基礎看護学（３）　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 ２　根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　第３版　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）
事前課題・事後課題あり

科目区分・科目名	専門分野：診療に伴う援助技術Ⅰ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	１年次　後期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊）

科目目標：１．診療の補助技術として、安全・適切に与薬するための基礎的知識・技術を習得できる。
２．与薬に伴う対象の心理とその看護が理解できる。

授業計画

回	**内　　容**	看護技術到達度評価
１～１５	１．与薬における基礎的知識 （１）与薬の基礎知識　（２）与薬における看護師の役割 ２．誤薬防止の基礎知識 （１）誤薬防止の実際 ３．薬物療法を受ける対象の心理と看護 ４．与薬の技術 （１）各与薬方法における基礎知識 （２）経口薬の投与 （３）経皮、外用薬の投与 （４）坐薬の投与 （５）皮下注射 （６）筋肉内注射（三角筋・中殿筋） （７）静脈路確保、点滴静脈内注射の実施と管理 ５．与薬の技術の実際 ６．中心静脈カテーテル留置の介助と管理 ７．輸血に関する基礎的知識 （１）輸血の管理	№３８　経口薬の投与 №３９　経皮・外用薬の投与 №４１　皮下注射 №４２　筋肉内注射 №６２　針刺し事故の防止・事故後の対応
評価方法	筆記試験、成果物	
テキスト	1　系統看護学講座　専門　基礎看護学（３）基礎看護技術Ⅱ　医学書院 2　根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　第３版　医学書院	

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）
事前課題・事後課題あり

科目区分・科目名	専門分野：診療に伴う援助技術Ⅱ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	２年次　前期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊）

科目目標：１．診療の補助技術として、侵襲的処置が安全・安楽に行われるための基礎的知識・技術を習得できる。
２．安全・安楽に配慮した呼吸・循環・体温を整える基礎的知識・技術を習得できる。
３．診察の補助技術として、診察・検査が安全かつ正確に行われるための基礎的知識・技術を習得できる。
４．診察・検査・処置を必要とする対象の心理や苦痛を理解できる。

授業計画

回	**内　容**	看護技術到達度評価
１～１１	１．呼吸・循環・体温を整える技術の基礎的知識 （１）酸素療法（酸素吸入療法）（２）排痰ケア （３）胸腔ドレナージ （４）吸入（５）体温管理の技術（６）末梢循環促進ケア ２．呼吸・循環・体温を整える技術の援助の実際 （１）酸素吸入療法（酸素ボンベの操作・管理を含む） （２）体位ドレナージ （３）吸引（一時的吸引） ３．罨法の基礎的知識と援助の実際（体温調整の援助） （１）温罨法　　（２）冷罨法	№３０　酸素吸入療法の実施
１２～１５	４．診察・検査・処置時の援助における看護の役割 ５．診察・検査・処置を必要とする対象の心理 ６．診察の介助の基礎的知識 ７．検査・処置の介助の基礎的知識 （１）生体検査時の看護　　（２）穿刺時の看護 ８．侵襲的処置時の援助の実際	№５６　検査の介助
評価方法	筆記試験、成果物	
テキスト	１　系統看護学講座　専門　基礎看護学（３）基礎看護技術Ⅱ　医学書院 ２　根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　第３版　医学書院	

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）
事前課題・事後課題あり

科目区分・科目名	専門科目：診療に伴う援助技術Ⅲ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	２年次　前期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊） 非常勤講師（＊）

科目目標： １．創傷管理技術・救急救命処置において、対象に必要な判断を行うための基礎的知識が理解できる。
２．安全で正確な創傷管理技術・救急救命処置の基礎知識が習得できる。
３．創傷管理技術・救急救命処置が必要な対象の心理とその看護が理解できる。
４．医療機器の取り扱いを理解し、安全で正確な管理・運用のための基礎的知識を習得できる。

授業計画

回	内　容	看護技術到達度評価
１～５	１．創傷管理の基礎知識 （１）創傷とは　（２）創傷治癒のための環境づくり ２．創傷処置 （１）術後一次縫合創とドレーン創の処置　（２）創洗浄と創保護 （３）包帯法 ３．創傷処置を受ける対象者への看護の実際 ４．褥瘡予防ケア （１）褥瘡に関する基礎知識　（２）体圧分散ケア ５．　褥瘡予防ケアの実際	№３５　褥瘡予防ケア №３６　創傷処置
６～１０	６．救急救命処置の基礎知識 （１）救急対応の考え方　（２）救急・急変時における初期対応 （３）トリアージ ７．緊急時の応援要請の実際 ８．心肺蘇生方法 （１）心肺蘇生法の基礎知識　（２）一次救命処置の実際 （３）小児・乳児の心肺蘇生法 （４）二次救命処置について ９．心肺蘇生方法（BLS）の実際 10．止血法と院内急変時の対応 11．止血法の実際	
１１～１４	12．症状・生体機能管理技術の基礎知識 （１）検体の取り扱い　（２）簡易血糖検査 （３）静脈血採血 13．　静脈血採血・簡易血糖測定の実際	
１５	14．　生体情報モニタリングの基礎知識 （１）心電図モニター　（２）SPO_2モニター 15．人工呼吸器について （１）目的と適応　（２）換気の種類 （３）人体への影響　（４）観察項目 16．人工呼吸の実際 17．シリンジポンプと輸液ポンプの操作と管理	

評価方法	筆記試験、成果物
テキスト	1　系統看護学講座　専門　基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ　医学書院 2　系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院 3　根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　第3版　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）

事前課題・事後課題あり

＊　授業終了後、看護技術到達度評価　№４７　緊急時の応援要請、№４８　一時救命処置（ＢＬＳ）のチェックあり

科目区分・科目名	専門分野：看護研究
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	３年次　前期
単位数（時間）	１単位（１５時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊）

科目目標： １．看護研究の意義を理解し、看護を自ら探求する姿勢を身につける。
２．研究方法の基礎的知識を習得できる。
３．自己の実践活動をまとめることで、看護の理解を深めることができる。

授 業 計 画

回	**内　　容**
１～８	１．看護研究の意義 ２．研究方法の基礎的知識 （１）研究デザイン （２）看護研究のクリティーク （３）研究における倫理 ３．事例研究の重要性 ４．ケーススタディの実際 （１）計画書の作成
評価方法	筆記試験　成果物
テキスト	系統看護学講座　別巻　看護研究　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）

科目区分・科目名	専門分野：地域・在宅看護概論Ⅰ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	１年次　後期
単位数（時間）	１単位（１５時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊）

科目目標： １．人々の暮らしを理解できる。
２．暮らしが健康に与える影響を理解できる。

授業計画

回	**内　　容**
１	１．暮らすということ （１）子供を生み育てる　（２）学ぶ　（３）働く　（４）病を治す （５）老いとともに生きる　（６）最期を迎える
２	２．支え合って生きるとは （１）家族　（２）仲間　（３）近隣の人々　（４）学校や職場（５）支え合い
３	３．地域の生活環境が健康に与える影響 （１）自然環境 （２）社会的環境（家族、近隣とのつながり、習慣・風習など文化） （３）生活の場（労働の場、学習の場、地域組織、施設など）
４～８	４．ライフステージ各期にある人々の暮らしの実際 （１）ライフステージにある身近な人のインタビュー （２）発達段階の特徴、役割等について （３）課題、環境と健康との関連
評価方法	成果物、授業態度
テキスト	系統看護学講座　地域・在宅看護論（１）地域・在宅看護の基盤　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）
事前課題あり

科目区分・科目名	専門分野：地域・在宅看護概論Ⅱ
授業形態	講義
履修年次・時期	１年次　後期
単位数（時間）	１単位（１５時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊）
科目目標：１．地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解できる。	
授業計画	
回	内　　容
１	１．地域・在宅看護論の目的
２	２．地域・在宅看護論の対象
３	３．地域包括ケアシステムの意義と概念
４～６	４．地域・在宅看護論に関連する法制度と施策 （１）地域・在宅看護論に関わる法令・制度 （２）介護保険制度 （３）訪問看護制度
７～８	５．看護が提供される多様な場の理解
評価方法	筆記試験、授業態度
テキスト	系統看護学講座　地域・在宅看護論（１）地域・在宅の基盤　医学書院
備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点） **事前課題あり**	

科目区分・科目名	専門分野：地域・在宅看護援助論Ⅰ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	２年次　前期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員

科目目標：１．地域で暮らす人々とその家族を理解できる。
２．地域で暮らす人々の健康保持・増進を支援する看護を理解できる。

授業計画

回	**内　　容**
１～３	１．地域で暮らす人々の理解 （１）地域に暮らすすべての人々 （２）健康状態（健康～終末期まで） （３）発達段階（胎児期～老年期まで）
４～６	地域で暮らす人々の家族の理解
７～９	３．地域で暮らす人々と家族の健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護 （１）ポピュレーション・ハイリスクアプローチ （２）健康行動理論の活用 （３）セルフケア理論の活用 （４）地域における健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護の実際 （５）在宅におけるリスクマネジメント （６）在宅における看護倫理 （７）在宅における災害対策
１０～１５	４．地域で療養生活を送る人と家族のアセスメント （１）ヘルスアセスメント （２）病態、症状のアセスメント （３）家族のアセスメント （４）生活のアセスメント （５）地域で療養生活を送る人と家族のアセスメントの実際
評価方法	筆記試験 成果物
テキスト	1　系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論１　医学書院 2　系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論２　医学書院

科目区分・科目名	専門分野：地域・在宅看護援助論Ⅱ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	２年次　前期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	非常勤講師（＊）

科目目標：１．地域で暮らす人々とその家族の健康レベルに応じた看護を理解できる。
２．地域で暮らす人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する方法を理解できる。

授業計画

回	内　容
１～２	１．地域で暮らす人々と家族を対象とした介入時期別の看護の特徴 （１）在宅療養準備期（退院前） （２）在宅療養移行期 （３）在宅療養安定期 （４）急性増悪期 （５）終末期（看取り期） （６）在宅療養終了期
３～５	２．地域で暮らすことを希望する人とその家族への看護（脳卒中後遺症をもつ高齢者） （１）意思決定支援と調整 （２）退院支援・退院調整 （３）退院支援に関わる多職種との連携・協働 （４）退院に向けた準備の実際 （５）在宅におけるセルフマネジメントの獲得・継続に向けた看護 （６）在宅における日常生活上のリスクマネジメント （７）在宅療養安定期を支える看護 （８）家族への看護
６～７	３．疾患の急性増悪と回復を繰り返しながら地域で暮らす人とその家族への看護（糖尿病） （１）在宅療養中のヘルスアセスメント （２）症状の急性憎悪時の看護 （３）主治医、医療機関との連携 （４）緊急時の対応と家族への看護
８～１０	４．医療的ケアを受けながら地域で暮らし続けることを希望する人とその家族への看護（ＡＬＳ） （１）医療的ケアを受けながら地域で暮らす人とその家族の特徴 （２）在宅における医療機器導入と管理 （３）地域で暮らしながら医療的ケアを受けるためのケアシステムの構築 （４）在宅における医療的ケアに関連する症状と合併症予防 （５）社会参加とＱＯＬ （６）家族への看護
１１～１２	５．最期まで地域で暮らすことを希望する人とその家族への看護（終末期がん患者等） （１）地域で暮らす終末期にある人とその家族の特徴 （２）最期まで地域で生きることを支えるためのケアシステム （３）終末期にある人の症状管理 （４）その人らしく生きることを支える看護 （５）看取りのケア （６）グリーフケア

１３	６．地域で暮らしながら、成長・発達していく子どもとその家族への看護 （重度心身障害をもつ子ども） （１）地域で暮らしながら療養する子どもと家族の特徴 （２）障害をもつ子どもの教育と地域で支える子どもの成長・発達 （３）地域で暮らすことを継続するための看護
１４	７．地域で暮らす独居高齢者への看護 （１）独居高齢者の動向 （２）独居高齢者が地域で暮らし続ける上での課題 （３）地域で暮らす独居高齢者の看護とケアシステムの実際
１５	８．精神障害を持ちながら地域で暮らす人を支える看護（統合失調症） （１）精神障害を持ちながら地域で暮らす人とその家族の特徴 （２）精神障害を持ちながら地域で暮らす人を支えるためのケアシステム （３）就労移行支援・就労継続支援 （４）精神障害を持ちながら地域で暮らす人を支える上での課題
評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論（２）地域・在宅看護の実践　医学書院
備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）	

科目区分・科目名	専門分野：地域・在宅看護援助論Ⅲ
授業形態	講義
履修年次・時期	２年次　後期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊） 非常勤講師（＊）

科目目標：１．暮らしの場で行われる医療的ケア援助技術を理解できる。

授業計画

回	**内　　容**
１～２	１．在宅医療の展開 （1）在宅医療のしくみ （2）在宅医療の実際 （3）在宅緩和医療
４～15	２．医療的ケア （1）褥瘡管理 （2）在宅経管栄養法 （3）輸液管理 （4）ストーマ管理 （5）CAPD 管理 （6）膀胱留置カテーテル法 （7）在宅酸素療法 （8）在宅人工呼吸療法（HMV）非侵襲的陽圧換気療法（NPPV） （9）在宅人工呼吸療法（HMV）気管切開下間陽圧換気療法（TPPV） (10) 疼痛管理 (11) 化学療法　放射線療法
評価方法	筆記試験、成果物、授業態度
テキスト	１　系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論（１）　地域・在宅看護の基盤　医学書院 ２　系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論（２）　地域・在宅看護の実践　医学書院

備考（受講生にのぞむことや受講上の注意）

科目区分・科目名	専門分野：地域・在宅看護援助論Ⅳ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	２年次　後期
単位数（時間）	１単位（１５時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊） 非常勤講師（＊）

科目目標：１．地域で暮らす人々と家族の健康を支える看護を理解できる。
２．地域包括ケアシステムにおける看護の役割を理解できる。
３．地域で暮らす人々を支援するための多職種連携・協働を理解できる。
４．在宅療養者における看護過程の展開を理解できる。

授業計画

回	内　　容
１	１．地域で暮らす人々と家族の健康を支える看護 （１）地域で暮らす人々・家族と保健医療従事者とのパートナーシップ （２）地域で暮らし続けることを支援するための看護 （３）自助/互助/公助/共助の意義と役割 （４）家族を支える看護
２～３	２．地域包括ケアシステムにおける看護の役割 （１）地域包括ケアシステムにおける看護の役割 （２）地域包括ケアシステムにおける連携・協働 （３）多職種連携・協働のためのコミュニケーション （４）地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント
４～８	３．地域で暮らす人とその家族を支える看護の実際（看護過程の展開）
評価方法	筆記試験、成果物
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論（２）地域・在宅看護の実践　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）

科目区分・科目名	専門分野：成人看護学概論
授業形態	講義
履修年次・時期	１年次　後期
単位数（時間）	１単位（１５時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊）

科目目標：１．成人看護の基盤となる考え方や理論を理解できる。
２．成人期の特徴を理解できる。
３．成人の保健・医療・福祉の動向と課題を理解できる。

授業計画

回	**内　　容**
１～８	１．成人看護の基盤となる考え方 （１）成人と生活 （２）生活と健康 （３）成人への看護アプローチの基本 ①健康行動への援助（成人学習者）②意思決定支援　③家族支援 ④看護実践における倫理的判断 ２．成人期の特徴 （１）ライフサイクルから見た成人期の特徴と発達課題 ３．成人期の保健の動向と政策（生活習慣病） （１）生活習慣病 （２）ストレスとメンタルヘルス （３）がん ４．成人教育の原理と成人期の対象への介入 （１）成人の学習の特徴（アンドラゴジー） （２）学習に基づく行動形成
評価方法	筆記試験、成果物
テキスト	系統看護学講座　専門　成人看護学（１）　成人看護学総論　医学書院 国民衛生の動向　厚生労働統計協会

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）
事前課題あり

科目区分・科目名	専門分野：成人看護学援助論Ⅰ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	１年次　後期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊） 非常勤講師

科目目標：１．成人期にある対象の健康状態に応じた理論の活用について理解できる。
２．成人期にある対象の健康を保持・増進し、疾病を予防するための健康教育を理解できる。

授業計画

回	**内　　容**
１、２	１．成人期のヘルスプロモーションとセルフケア・セルフマネジメント （１）成人期のヘルスプロモーション （２）セルフケアとは（オレムのセルフケア理論） （３）セルフマネジメントとは （４）セルフマネジメントの構成要素 （５）自己効力理論 （６）セルフマネジメント教育
３～８	２．成人期にある対象の生活習慣と健康教育 （１）生活習慣が健康生活に及ぼす影響と原因（問題）の抽出 （２）ヘルスプロモーションにおける地域の予防活動の実際 （３）生活環境にある生活習慣病予防対策の実際 （４）健康的な生活を送るための生活習慣病予防のための健康教育の実践
９～１１	３．成人期にある対象のストレスと健康教育（ストレスコーピング） （１）ストレスが健康生活へ及ぼす影響と原因の抽出 （２）ストレスに対処するための予防活動の実際 （３）健康的な生活を送るためのストレス対処を獲得するための健康教育の実践
１２～１５	４．成人期にある対象の職業と健康教育（産業保健） （１）職業が健康生活に及ぼす影響と原因の抽出 （２）職業による健康障害を予防するための予防活動の実際 （３）職業による健康障害を予防するための健康教育の実践
評価方法	筆記試験、成果物
テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学（１）　成人看護学総論　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）
事前課題あり

科目区分・科目名	専門分野　成人看護学援助論Ⅱ
授業形態	講義、演習
履修年次・時期	２年次　前期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊） 非常勤講師（＊）

科目目標：１．成人期にある対象の健康状態に応じた理論の活用について理解できる。
２．急速に健康状態が変化する対象の病態や、治療とその影響を理解できる。
３．健康状態の急激な変化と合併症予防を理解し、回復過程を支援する看護を理解できる。
４．健康状態の急激な変化から日常生活の自立・自律に向けた回復過程を支援する看護
理解できる。

授業計画

回	**内　　容**	看護技術到達度評価
1	１．急速に健康状態が変化する状況にある成人の理解１ （１）身体的・心理的・社会的特徴　（フィンクの危機理論） （２）家族の特徴 ２．急速に健康状態が変化する状況にある成人の理解２ （１）周術期 （２）急激な病状の変化 （３）救命救急処置を必要としている対象者への看護	
2	３．手術等の侵襲的治療を予定して受ける状況の看護 （１）侵襲刺激に対する生体反応　　（２）麻酔 ４．手術前からの看護 （１）手術療法の理解を促す援助、意思決定への支援 （２）術後合併症のリスクアセスメントと援助 （３）術前オリエンテーション （４）不安のアセスメントと援助 （５）ボディーイメージの変容への援助	
3	５．　手術中の看護 （１）手術方法（開腹・開胸・開頭・内視鏡）による影響と援助 （２）手術体位による影響と援助 （３）麻酔による影響と援助 （４）安全管理	
4	６．　手術後の看護 （１）生体反応　　（２）早期離床　　（３）術後の疼痛管理 （４）創傷管理　　（５）ドレーン管理 ７．合併症の予防 （１）術後出血　　（２）下肢静脈血栓、肺塞栓症　（３）呼吸器合併症 （４）感染症　（５）廃用症候群	

５～６	８．急激な病状の変化をきたしている対象の理解と看護　（心筋梗塞、狭心症、不整脈） （１）心機能障害のアセスメント （２）日常生活への影響とセルフケア （３）ペースメーカーを装着した対象のセルフケア	
７	９．救命救急処置を必要としている対象の理解と看護 （１）外傷　　（２）熱傷　　（３）ショック	
８	１０．健康生活の急激な破綻からの自立・自律に向けた回復を促す看護 （１）機能障害のアセスメント　（２）セルフケア能力の獲得 （３）障害に対する受容と適応への看護　　（４）チームアプローチと社会資源の活用　　（５）患者の社会参加への支援	
９～１０	１１．開腹術を受ける対象の看護 （１）人工肛門造設術を受ける対象の看護（大腸がん）	№１２　ストーマ管理
１１～１２	１２．開胸術を受ける対象の看護 （１）肺葉切除を受ける対象の看護（肺がん　胸腔ドレーン）	
１３～１５	１３．脳・神経機能障害のある対象の看護 （１）再出血、合併症のアセスメントと予防（くも膜下出血） （２）機能障害による日常生活動作のアセスメント （３）二次障害予防 （４）高次脳機能障害への援助 （５）障害の克服への看護	
評価方法	筆記試験	
テキスト	１　系統看護学講座　専門　成人看護学（１）成人看護学総論　医学書院 ２　系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院 ３　系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論　医学書院 ４　系統看護学講座　専門　成人看護学（３）循環器　医学書院 ５　系統看護学講座　別巻　救急看護学　医学書院 ６　系統看護学講座　専門　成人看護学（５）消化器　医学書院 ７　系統看護学講座　専門　成人看護学（２）呼吸器　医学書院 ８　系統看護学講座　専門　成人看護学（７）脳・神経　医学書院	
備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）		

科目区分・科目名	専門分野　成人看護学援助論Ⅲ
授業形態	講義
履修年次・時期	２年次　前期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊） 非常勤講師（＊）

科目目標：１．成人期にある対象の健康状態に応じた理論の活用について理解できる。
２．慢性的経過をたどる対象の病態や治療とその影響について理解できる。
３．健康課題を持ちながらその人らしく過ごせるよう QOL の維持・向上を支援する看護を理解できる。
４．急性憎悪の予防・早期発見・早期対応に向けた看護を理解できる。

授業計画

回	**内　　容**
１～２	１．慢性的経過をたどる成人の理解 （１）慢性疾患の特徴 （２）家族の特徴 （３）病みの軌跡 ２．慢性疾患とセルフマネジメント （１）疾病認識と自己管理状況のアセスメント （２）セルフケア行動形成への影響要因 （３）セルフケア行動継続への援助 （内発的動機付け、エンパワーメントアプローチ、自己モニタリング）
３～４	３．慢性的な変化との共存を支える看護①　（糖代謝障害） （１）糖代謝障害のアセスメント（糖尿病） （２）増悪因子の回避と症状マネジメント （３）セルフマネジメントの実際
５	慢性的な変化との共存を支える看護（HIV） （１）HIV 感染症・エイズ患者の病期に応じた看護
６～８	４．慢性的な変化との共存を支える看護②　（透析療法） （１）腎機能障害のアセスメント（慢性腎不全） （２）増悪因子の回避と症状マネジメント （３）血液透析時の看護 （４）腹膜透析時の看護 （５）社会生活継続のためのマネジメント
９～１１	５．障害を持ちながらの生活とリハビリテーションを支える看護①　（パーキンソン病） （１）神経・筋障害のアセスメント （２）増悪因子の回避と症状マネジメント （３）機能障害による日常生活動作のアセスメントとリハビリテーション （４）生活の再構築のための支援

１２～１４	６．障害を持ちながらの生活とリハビリテーション②　（脊髄損傷） （1）機能障害による日常生活動作のアセスメント （2）合併症・二次障害予防に向けた日常生活援助 （3）職業生活に関わる支援 （4）セクシャリティに関わる支援 （5）退院にむけての調整
１５	７．ボディーイメージの変容の受容に向けた看護　（乳がん） （1）ボディーイメージの変容の不安と創部の受容 （2）乳房補正用品やソーシャルサポートの情報提供 （3）機能障害・しびれ・浮腫・疼痛の改善に向けたリハビリテーション （4）リンパ廓清後のセルフマネジメント
評価方法	筆記試験
テキスト	1　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学（1）成人看護学総論　医学書院 2　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学（6）　内分泌・代謝　医学書院 3　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学（8）　腎泌尿器　医学書院 3　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学（7）　脳神経系　医学書院 4　系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　医学書院 5　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学（１０）　運動器　医学書院 6　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学（9）　女性生殖器　医学書院 7　系統看護学講座　専門分野　成人看護学（１１）　アレルギー　膠原病　感染症
備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点） **事前課題あり**	

科目区分・科目名	専門分野　成人看護学援助論Ⅳ
授業形態	講義、演習
履修年次・時期	２年次　後期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊） 非常勤講師（＊）

科目目標：

１．成人期にある対象の健康状態に応じた理論の活用を理解できる。
２．終末期にある対象の治療と苦痛を理解し、緩和に向けた支援について理解できる。
３．終末期にある対象の意思を尊重し、その人らしく過ごせる支援について理解できる。
４．終末期にある対象及び家族を多様な場においてチームで支援することの重要性を理解できる。
５．がん患者と家族の看護が理解できる。

授業計画

回	内　容
１	１．終末期にある対象と家族の特徴（緩和ケア概論、死の概念、生命倫理） （１）全人的ケア （２）緩和ケアにおけるチームアプローチ （３）緩和ケアにおける倫理的問題 （４）臨死期のケア
２～７	２．緩和ケアの看護技術 （１）人の生命、死と医療（死の概念、死生観、生命倫理） （２）エンドオブライフケア （３）緩和ケアにおける倫理的課題（患者のQOL、意思決定支援、安楽死・尊厳死、鎮静） （４）全人的苦痛への介入 （５）苦痛緩和のための基本的援助 ３．人生最後の時を支える看護 （１）臨死期のケア （２）死にゆく人と周囲の人々への看護
８～１０	４．がん看護 （１）がんという病気がもつ意味 （２）がん患者の治療と看護（化学療法、放射線療法、集学的治療） （３）がん患者の社会参加への支援
１１～１３	５．苦痛緩和のための基本的援助（白血病） （１）その人らしさを支える日常生活の援助 （２）代替・補完療法
１４～１５	６．難病をもちながらの生活と意思決定を支える基本的援助（ALS） （１）日常生活動作のアセスメントと援助 （２）コミュニケーションと支援 （３）対象・家族の意思決定を支える援助

評価方法	筆記試験
テキスト	1　系統看護学講座　別巻　緩和ケア　医学書院 2　系統看護学講座　別巻　がん看護学　医学書院 3　系統看護学講座　専門分野　成人看護学（4）　血液・造血器　医学書院 4　系統看護学講座　専門分野　成人看護学（7）　脳・神経　医学書院
備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）	

科目区分・科目名	専門分野・成人看護学援助論Ⅴ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	２年次　後期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊）
科目目標： １．事例を通して成人期にある対象の看護が展開できる。	

授 業 計 画

回	**内　　容**
１～８	１．周手術期にある人の看護：胃がん （１）臨床推論・判断 （２）看護過程の展開（情報の分析・解釈、看護上の問題の明確化、看護計画立案）
９～15	２．セルフマネジメントが必要な人の看護：COPD （１）看護過程の展開（情報の分析・解釈、看護上の問題の明確化、看護計画立案）
評価方法	成果物
テキスト	１　系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院 ２　系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論　医学書院 ３　系統看護学講座　専門　成人看護学（５）　消化器　医学書院 ４　系統看護学講座　専門　成人看護学（２）　呼吸器　医学書院
備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点） **事前課題あり**	

科目区分・科目名	専門分野： 老年看護学概論
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	１年次　後期
単位数（時間）	１単位（１５時間）
担当教員（＊印：実務経験有）	専任教員（＊）

科目目標：　１．老年期の特徴を踏まえ対象の加齢変化について理解できる。
２．高齢者と家族をめぐる保健医療福祉の制度・政策の現状について理解できる。
３．老年看護の概念および看護の役割が理解できる。

授業計画

回	内　　容
１	１．「老いる」ということ （１）加齢と老化　（２）加齢に伴う身体的側面の変化 （３）加齢に伴う心理的側面の変化（４）加齢に伴う社会的側面の変化 ２．老いを生きるということ （１）高齢者の定義　（２）発達と成熟
２～３	３．ヘルスアセスメントの基本 （１）高齢者総合機能評価（CGA） ４．身体の加齢変化とアセスメント （１）皮膚とその付属器　（２）視聴覚とそのほかの感覚　（３）循環系　（４）呼吸器系 （５）消化器系　（６）ホルモンの分泌　（７）泌尿生殖器　（８）運動系
４～６	５．超高齢社会の統計的輪郭 （１）超高齢社会の現況　（２）高齢者と家族　（３）高齢者の健康状態 （４）高齢者の死亡　（５）高齢者の暮らし ６．高齢社会における保健医療福祉の動向 （１）高齢者にかかわる保健医療福祉システムの構築（２）高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化
７	７．高齢者の権利擁護 （１）高齢者に対するスティグマと差別　（２）高齢者虐待　（３）身体拘束（４）権利擁護のための制度
８	８．老年看護のなりたち （１）老年看護学教育の発展　（２）老年看護の定義 ９．老年看護の役割 （１）注目すべき４つの側面　（２）老年看護の特徴 １０．老年看護における理論・概念の活用 １１．老年看護に携わる者の責務
評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門　老年看護学　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）
事前課題あり

科目区分・科目名	専門分野： 老年看護学援助論Ⅰ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	２年次　前期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員（＊印：実務経験有）	専任教員（＊）

科目目標：１．加齢による日常生活への影響を理解できる。
２．生活機能低下の予防と残存能力を活かし、再獲得に向けた援助を理解できる。
３．高齢者が生活する多様な場での看護を理解できる。

授業計画

回	内　　容
１～３	１．日常生活を支える基本的活動 （1）基本的動作と環境のアセスメント（2）転倒のアセスメント（3）廃用症候群のアセスメントと看護
４～５	２．食事・食生活 （1）高齢者における食生活の意義（2）高齢者に特徴的な変調 （3）食生活のアセスメント（4）食生活の支援
６～７	３．排泄 （1）高齢者の排泄ケアの基本　（2）排尿障害のアセスメントとケア　（3）排便障害のアセスメントとケア
８～９	４．清潔 （1）高齢者における清潔の意義　（2）高齢者に生じやすい清潔に関する健康問題 （3）清潔のアセスメント　（4）清潔の援助
１０	５．生活リズム （1）高齢者と生活リズム（2）高齢者に特徴的な変調（3）生活リズムのアセスメント（4）生活リズムを整える看護
１１	６．コミュニケーション （1）高齢者とのコミュニケーションの特徴とかかわり方の原則 （2）コミュニケーション能力のアセスメント （3）高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法
１２	７．セクシュアリティ （1）高齢者におけるセクシュアリティ（2）高齢者ケアの場における性に関する問題 （3）セクシュアリティと看護 ８．社会参加 （1）高齢化の現状と目ざす社会の方向性　（2）地域における高齢者の社会参加
１３～１５	９．高齢者とヘルスプロモーション （1）老年期のヘルスプロモーション　（2）介護予防とヘルスプロモーション （3）「住み慣れた場所で最期まで」を実現する地域包括ケア １０．保健医療福祉施設および居住施設における看護 （1）介護保険施設　（2）地域密着型サービス　（3）住まい １１．治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 （1）家族の健康と生活　（2）家族への援助 １２．多職種連携実践による活動
評価方法	筆記試験

テキスト	系統看護学講座　専門　老年看護学　医学書院
備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）	

科目区分・科目名	専門分野： 老年看護学援助論Ⅱ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	２年次　前期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	非常勤講師（＊）

科目目標：１．高齢者の健康障害の特徴が理解できる。
２．高齢者に特有な健康障害や治療に応じた看護を理解できる。

授業計画

回	内　　容
１	１．症候のアセスメント （１）発熱　（２）痛み　（３）掻痒（かゆみ）　（４）脱水　（５）嘔吐 （６）浮腫　（７）倦怠感　（８）褥瘡・スキンーテア
２～４	２．急速に健康状態が変化する状況から回復に向かう高齢者の看護（高齢者肺炎） （１）高齢者肺炎の発生機序　（２）高齢者の誤嚥　（３）顕性誤嚥と不顕性誤嚥 （４）誤嚥と反射の低下　（５）誤嚥性肺炎の予防　（６）急性期の看護 （７）回復期の看護　（８）予防的ケア
５～７	３．周手術期における高齢者の看護（前立腺がん） （１）前立腺がんの発生・進行　（２）手術の影響とその対処 （３）術後合併症の早期発見、対処　（４）疼痛緩和と離床を促す看護 （５）術後の尿失禁への援助　（６）術後の性機能障害への看護
８～１０	４．急速に健康状態が変化する状況にある高齢者の看護（急性心不全） （１）心不全の病態生理・症状　（２）心不全の重症度分類・治療 （３）心不全症状の緩和（呼吸困難、浮腫） ５．慢性疾患をもちながら生活する高齢者の看護（慢性心不全） （１）慢性心不全の急性増悪の予防　（２）日常生活の再調整 （３）肺うっ血に伴う呼吸困難の緩和　（４）薬物療法の援助 （５）非薬物療法の援助 （６）心臓の負荷の軽減　（７）食事療法への援助　（８）心不全に伴う合併症の予防 （９）心理的な援助　（１０）家族への援助
１１～１５	６．苦痛の緩和やその人らしく過ごすための高齢者の看護（認知症） （１）認知機能障害のある対象の看護　（２）認知症高齢者の理解と看護 （３）コミュニケーション方法　（４）療養環境の調整 （５）急性期一般病床での援助　（６）家族への支援とサポートシステム （７）認知症高齢者の終末期ケアの現状 （８）終末期医療における認知症高齢者の自己決定支援 （９）認知症高齢者の代理決定をする家族への援助
評価方法	筆記試験
テキスト	１　系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾病論　医学書院 ２　系統看護学講座　専門分野　成人看護学（２）　呼吸器　医学書院 ３　系統看護学講座　専門分野　成人看護学（８）　腎・泌尿器　医学書院

	4　系統看護学講座　専門分野　成人看護学（3）　循環器　医学書院 5　系統看護学講座　専門分野　成人看護学（7）　脳・神経　医学書院
備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）	

科目区分・科目名	専門分野： 老年看護学援助論Ⅲ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	２年次　前期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊）

科目目標： １．治療を必要とする高齢者の看護が理解できる。
２．終末期にある高齢者および家族の意思を尊重し、その人らしく生きるための看護について理解できる。
３．事例を通して老年期にある対象の看護が展開できる。

授業計画

回	内　　容
１	１．検査を受ける高齢者の看護 （1）高齢者が受けることの多い検査　（2）検査を受ける高齢者への援助 ２．入院治療を受ける高齢者の看護 （1）治療を担う医療施設の状況　（2）入院に伴う環境の変化と高齢者への影響 （3）入院初期の援助　（4）家族への配慮（5）チーム医療（6）退院調整・退院支援
２～３	３．薬物療法を受ける高齢者の看護 （1）加齢に伴う薬物動態の変化　（2）高齢者に特徴的な薬物有害事象 （3）老年症候群と薬物有害事象　（4）薬物療法における援助 ４．手術を受ける高齢者の看護 （1）手術を受ける高齢者の特徴　（2）術前の看護マネジメント （3）術後の看護マネジメント　（4）高齢者に特徴的な手術 ５．リハビリテーションを受ける高齢者の看護 （1）リハビリテーションを必要とする高齢者　（2）経過別リハビリテーション
４～５	６．エンドオブライフケアの概念 （1）エンドオブライフケアとは　（2）高齢者におけるエンドオブライフケア ７．「生ききる」ことを支えるケア （1）死生観　（2）死の準備状況 ８．意思決定への支援 （1）高齢者の尊厳をまもるための支援　（2）アドバンスケアプランニング ９．末期段階に求められる援助 （1）高齢者の末期段階における身体的変化とアセスメント （2）末期段階の苦痛を緩和するケア　（3）家族への支援
６～１５	１０．看護過程展開（大腿骨頸部骨折患者の看護） （1）情報の解釈・分析（2）看護上の問題の明確化（3）計画立案　（4）実施・評価
評価方法	筆記試験、成果物
テキスト	１．系統看護学講座　専門　老年看護学　医学書院 ２．系統看護学講座　専門　老年看護　病態・疾患論　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）
事前課題あり

科目区分・科目名	専門分野：小児看護学概論
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	２年次　前期
単位数（時間）	１単位（１５時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員

科目目標：１．小児看護の特徴を理解できる。
２．小児看護の対象となる子どもと家族の特徴を理解できる。
３．子どもと家族を取り巻く社会の状況を理解できる。
４．小児看護の課題を理解できる。

授業計画

回	**内　　容**
１～２	１．小児看護の特徴 （１）小児看護の目ざすところ　（２）小児と家族の諸統計 （３）小児看護の変遷　（４）小児看護における倫理
３	２．家族の特徴 （１）子どもにとっての家族 （２）家族の役割 （３）様々な家族の状況 （４）虐待
４～６	３．　子どもと家族を取り巻く社会 （１）児童福祉　（２）母子保健　（３）医療費の支援　（４）予防接種　（５）学校保健 （６）食育　（７）特別支援教育　（８）臓器移植
７～８	４．小児看護の課題
評価方法	筆記試験、授業態度
テキスト	系統看護学講座　専門分野　小児看護学（１）小児看護学概論　小児臨床看護総論　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）
事前課題あり

科目区分・科目名	専門分野：小児看護学援助論Ⅰ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	２年次　前期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員

科目目標：１．子どもの成長・発達を理解できる。
２．小児各期の成長・発達の特徴を理解できる。
３．小児各期の養育・日常生活援助の特徴および看護を理解できる。
４．小児期にある対象の健康状態をアセスメントし看護ケアにつなげる方法を理解できる。

授業計画

回	**内　　容**
１～３	１．子どもの成長・発達 （１）成長・発達とは （２）成長・発達の進み方（一般的原則） （３）成長・発達に影響する因子 （４）成長の評価 （５）発達の評価
４～10	２．小児各期における成長・発達の特徴と養育および看護 （１）乳児期の形態的特徴・身体生理の特徴・各機能の発達 （２）乳児期の養育および看護 （３）幼児期の形態的特徴・身体生理の特徴・各機能の発達 （４）幼児期の養育および看護 （５）学童期の形態的特徴・身体生理の特徴・各機能の発達 （６）学童期の養育および看護 （７）思春期の形態的特徴・身体生理の特徴・各機能の発達 （８）思春期の課題 （９）思春期の看護
11～15	３．小児期にある対象のアセスメント （１）発育の評価 （２）評価の実際 （３）小児期に特徴的なヘルスアセスメント
評価方法	筆記試験、授業態度
テキスト	系統看護学講座　専門分野　小児看護学（２）　小児臨床看護各論　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）
事前課題あり

科目区分・科目名	専門分野：小児看護学援助論Ⅱ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	２年次　後期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員 非常勤講師（＊）

科目目標：　１．さまざまな症状を呈する子どもの看護を理解できる。
２．検査・処置を受ける子どもの看護を理解できる。
３．健康状態に応じた子どもと家族の看護を理解できる。

授業計画

回	内　　容
１～２	１．症状を示す子どもの看護 （１）不機嫌（２）啼泣（３）痛み（４）呼吸困難（５）痙攣（６）発熱（７）嘔吐 （８）下痢（９）脱水（10）発疹
３～４	２．検査・処置を受ける子どもの看護 （１）子どもにとっての検査・処置体験 （２）子どもに特徴的な薬物動態と薬液量の決定 （３）検査・処置の実際
５～７	３．急速に健康状態が変化する子どもと家族の看護（川崎病・不慮の事故） （１）急速に健康状態が変化する子どもと家族の特徴 （２）生命維持と生体機能の安定、苦痛の緩和と安全を守る看護
８～10	４．周手術期における子どもと家族の看護（鼠径ヘルニア） （１）小児期の手術の特徴 （２）周手術期における子どもと家族の反応 （３）術前～術後回復期の看護
11～13	５．慢性的な経過をたどりながら生活する子どもと家族の看護（糖尿病） （１）慢性的な病気や治療が子どもに与える影響 （２）セルフケア能力獲得に向けた支援 （３）成人期への移行を目指した支援
14～15	６．　最後までその子らしく生きるための看護（白血病） （１）小児期の終末期の特徴 （２）小児期における生命・死のとらえ方 （３）小児期における対象と家族の看護 （４）子どもを亡くした家族の看護 （５）終末期における多職種チームアプローチ
評価方法	筆記試験、授業態度
テキスト	系統看護学講座　専門分野　小児看護学（１）小児看護学概論　小児臨床看護　総論　医学書院

	2　系統看護学講座　専門分野　小児看護学（2）　小児臨床看護各論　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）

事前課題あり

科目区分・科目名	専門分野：小児看護学援助論Ⅲ
授業形態	講義・演習
g 履修年次・時期	２年次　後期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	非常勤講師（＊） 専任教員

科目目標：　１．病気・障害をもつ子どもと家族の看護を理解できる。
２．子どもの状況に特徴づけられる看護を理解できる。
３．事例展開を通して、慢性的な経過をたどる子どもと家族への看護が展開できる。

授業計画

回	**内　　容**
１～３	１．健康障害をもつ子どもと家族の看護 （１）病気・障害が子どもと家族に与える影響 （２）子どもの健康問題と看護
４～9	２．子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 （１）入院中の子どもと家族の看護 （２）外来における子どもと家族の看護 （３）在宅療養中の子どもと家族の看護 ３．障害のある子どもと家族の看護 （１）障害のとらえ方 （２）障害のある子どもと家族の特徴 （３）障害のある子どもと家族への社会的支援 （４）重症心身障がい児の看護
10～15	４．看護過程の展開 （１）ネフローゼ症候群患児の看護過程
評価方法	筆記試験、授業態度
テキスト	１　系統看護学講座　専門分野　小児看護学（１）　小児看護学概論　小児臨床看護総論　医学書院 ２　系統看護学講座　専門分野　小児看護学（２）　小児臨床看護各論　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）
事前課題あり

科目区分・科目名	専門分野：母性看護学概論
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	１年次　後期
単位数（時間）	１単位（１５時間）
担当教員（＊印：実務経験有）	専任教員（＊）

科目目標：１．母性看護の基盤となる概念と母子保健の動向を理解できる。
２．ライフサイクル各期の特徴と看護を理解できる。
３．リプロダクティブヘルスに関する特徴と看護を理解できる。

授 業 計 画

回	内　　容
１～２	１．母性看護の基盤となる概念 （１）母性とは （２）母子関係と家族発達 （３）セクシュアリティ （４）リプロダクティブヘルス/ライツ （５）ヘルスプロモーション （６）母性看護のあり方 （７）母性看護における倫理 （８）母性看護における安全・事故予防
３	２．母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 （１）母性看護の歴史的変遷と現状 （２）母性看護の提供システム
４	３．母性看護の対象理解 （１）女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化 （２）女性のライフサイクルと家族 （３）母性の発達・成熟・継承
５～６	４．女性のライフステージ各期における看護 （１）ライフサイクルにおける女性の健康と看護 （２）思春期の健康と看護 （３）性成熟期の健康と看護 （４）更年期・老年期の健康と看護
７～８	５．リプロダクティブヘルスケア （１）家族計画 （２） HIV に感染した女性に対する看護 （３）人工妊娠中絶と看護 （４）喫煙と女性の健康 （５）性暴力を受けた女性に対する看護 （６）児童虐待と看護 （７）国際化社会と看護
評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門　母性看護学（１）母性看護学概論　医学書院 厚生労働統計協会　厚生の指標 増刊 国民衛生の動向

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）

科目区分・科目名	専門分野：母性看護学援助論Ⅰ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	２年次　前期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当講師 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊）

科目目標：１．妊娠の経過と看護について理解できる。
２．分娩の経過と看護について理解できる。

授 業 計 画

回	**内　　容**
１	１．子どもを産み育てること （1）子どもを産み育てるということの意味 （2）母親になるということ
２～９	２．妊娠期における看護 （1）妊娠期の身体的特性 （2）妊娠期の心理・社会的特性 （3）妊婦と胎児のアセスメント （4）妊婦と家族の看護とその実際
１０～１５	３．分娩期における看護 （1）分娩の要素 （2）分娩の経過 （3）産婦・胎児、家族のアセスメント （4）産婦と家族の看護とその実際
評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門　母性看護学（2）母性看護学各論　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）

科目区分・科目名	専門分野：母性看護学援助論Ⅱ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	２年次　後期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当講師 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊） 非常勤講師（＊）

科目目標：１．　産褥の経過と看護について理解できる。
　　２．　新生児の経過と看護について理解できる。
　　３．　事例を通して、産褥期にある対象の看護が展開できる。

授 業 計 画

回	内　　容
１～４	１．新生児期における看護 （1）新生児の生理（新生児の定義と分類・新生児の形態と機能） （2）新生児のアセスメント （3）新生児の看護とその実際（出生後から退院後までの看護）
５～10	２．産褥期における看護 （1）産褥期の身体・心理・社会的変化 （2）褥婦のアセスメント （3）褥婦と家族の看護とその実際 （4）施設退院後の看護とその実際
11～15	３．ウェルネス看護診断を用いた看護過程の展開 （1）母性看護における看護過程の考え方　（ウェルネス看護診断とは） （2）看護過程の展開
評価方法	筆記試験、成果物
テキスト	系統看護学講座　専門分野　母性看護学（2）　母性看護学各論　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）
事前課題あり

科目区分・科目名	専門分野：母性看護学援助論Ⅲ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	２年次　後期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	非常勤講師（＊）

科目目標： １．ハイリスク妊・産・褥婦、新生児の状態と看護について理解できる。
２．正常経過を逸脱した妊・産・褥婦、新生児の状態と看護について理解できる。

授 業 計 画

回	内　容
１	１．不妊治療と看護 （１）遺伝相談 （２）出生前診断 （３）不妊検査・治療 （４）看護
２～３	２．妊娠の異常と看護 （１）ハイリスク妊娠　（２）妊娠期の感染症 （３）妊娠疾患　（４）多胎妊娠 （５）妊娠持続期間の異常　（６）異所性妊娠
４～６	３．ハイリスク妊婦の看護 （１）高年妊婦の看護　（２）若年妊婦の看護 （３）肥満・過剰体重増加妊婦の看護　（４）生殖補助医療後の妊婦の看護 （５）合併症を有する妊婦の看護　（６）妊娠高血圧症候群妊婦の看護 （７）切迫流・早産の妊婦の看護　（８）多胎妊婦の看護 （９）その他の問題をもつ妊婦の看護
７～８	４．分娩の異常と看護 （１）産道の異常　（２）娩出力の異常 （３）胎児の異常による分娩障害　（４）胎児の付属物の異常 （５）胎児機能不全　（６）分娩時の損傷 （７）分娩第３期および分娩直後の異常　（８）分娩時異常出血 （９）産科処置と産科手術
９～１１	５．異常のある産婦の看護 （１）破水が生じた産婦の看護　（２）分娩遷延のリスクのある産婦の看護 （３）胎児機能不全を生じるリスクのある産婦の看護 ６．異常分娩時の産婦の看護 （１）帝王切開術を受ける産婦の看護　（２）急速遂娩を受ける産婦の看護 ７．分娩時異常出血のある産婦の看護 （１）弛緩出血を生じた産婦の看護　（２）会陰裂傷・会陰切開を行った産婦の看護
１２	８．新生児の異常と看護 （１）低出生体重児の看護　（２）高ビリルビン血症児の看護
１３～１５	９．産褥の異常と看護 （１）子宮復古不全　（２）産褥期の発熱　（３）産褥血栓症　（４）精神障害 （５）異常のある褥婦の看護　（６）児を亡くした褥婦・家族の看護 （７）メンタルヘルスの問題を抱える母親の支援

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門分野　母性看護学（2）　母性看護学各論　医学書院
備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）	

科目区分・科目名	専門分野：精神看護学概論
授業形態	講義
履修年次・時期	１年次　後期
単位数（時間）	１単位（１５時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員

科目目標：１．精神看護の目的を理解できる。
２．精神看護の対象を理解できる。
３．精神保健医療福祉の変遷と現状を理解できる。
４．様々な場におけるメンタルヘルスを理解できる。

授 業 計 画

回	内　　容
１	１．「心のケア」と現代社会 ２．精神看護学とその課題 ３．精神障害とは ４．精神障害と社会学
２～４	５．人間の心の諸活動 （１）人格と気質（２）意識と認知機能（３）感情（４）心の理論 ６．心のしくみと人格の発達 （１）自我の構造（２）不安と防衛（３）発達理論（フロイト・エリクソン） ７．対象関係論
５	８．日本の精神保健福祉の変遷 （１）戦前・戦後の日本の精神保健福祉（２）精神保健福祉の現在と今後
６～７	９．精神障害と法制度 （１）権利擁護に関する法律と制度（２）民法における成年後見制度 （３）精神保健福祉法における精神科病院・入院形態（４）法律・制度における課題
８	１０．様々な場におけるメンタルヘルス （１）身体疾患をもつ患者のメンタルヘルス（２）リエゾン精神看護とその活動
評価方法	筆記試験
テキスト	１　系統看護学講座　専門分野　精神看護学（１）　精神看護の基礎　医学書院 ２　系統看護学講座　専門分野　精神看護学（２）　精神看護の展開　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）

科目区分・科目名	専門分野：精神看護学援助論Ⅰ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	２年次　前期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	非常勤講師（＊）

科目目標： １．精神の健康と障害を理解できる。
２．人間の心のはたらきを理解できる。
３．心の健康の増進と精神障害の予防について理解できる。

授 業 計 画

回	内　　容
１～２	１．精神の健康とは （1）「ふつう」というものさし（2）精神の健康と障害の３つの側面（3）精神健康の基準 ２．精神障害の体験 ３．精神障害のとらえ方
３	４．精神を病むことと生きること （1）「病いの経験」の理解（2）精神医学と看護
４～５	５．危機理論とストレス理論 （1）危機の考え方（2）ストレスへの対処（コーピング）（3）ストレスとしての心的外傷
６～７	６．家族形態と家族の役割 （1）家族の多様性（2）家族と健康（3）家族療法の考え方
８	７．人間と集団 （1）集団の中の自己（2）グループダイナミクス（3）グループの実践
９～１０	８．精神障害の予防概念とその活動 （1）カプランの３つの予防概念（2）学校におけるメンタルヘルス （3）職場におけるメンタルヘルス
１１～１２	９．精神障害をもちながら地域で暮らす人のメンタルヘルス （1）地域で生活するための原則（2）生活を支える制度 （3）おもな精神保健医療福祉と動向
１３～１４	１０．災害時のメンタルヘルス （1）災害時にみまわれた人の心理（2）災害時における心のケアの必要性
１５	１１．看護師のメンタルヘルス （1）感情労働としての看護（2）感情労働の代償と社会 （3）共感疲労の予防
評価方法	筆記試験
テキスト	１　系統看護学講座　専門分野　精神看護学（1）　精神看護の基礎　医学書院 ２　系統看護学講座　専門分野　精神看護学（2）　精神看護の展開　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）

科目区分・科目名	専門分野：精神看護学援助論Ⅱ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	２年次　後期
単位数（時間）	１単位（30 時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	非常勤講師（＊）
科目目標： １．精神の健康状態に合わせた対象の特徴と援助方法を理解できる。	

授 業 計 画

回	**内　　容**
１～３	１．ケアの原則 （1）人としての尊厳の尊重（2）ケアの方法（3）患者 - 看護師関係 （4）チームのダイナミクス
４～５	２．さまざまな精神症状 （1）思考の障害（2）感情の障害（3）意欲の障害（4）知覚の障害 （5）意識の障害（6）記憶の障害
６～９	３．入院治療の意味と治療的環境 ４．回復を支援する （1）回復の意味（2）リカバリーのビジョン（3）様々な回復のためのプログラム ５．精神科における身体のケア （1）精神療法としての身体のケア（2）身体化する患者の世界 （3）精神科のおけるフィジカルアセスメント （4）抗精神病薬の有害反応（5）電気けいれん療法の看護
１０～１１	６．精神状態が急速に変化する対象の安全と精神的安寧を守る看護 （1）リスクマネジメントの考え方と方法（2）緊急事態への対処 （3）急性期病棟における対象が安心感をもてる関係構築 （4）幻覚・妄想がある患者の看護（5）無為自閉の患者の看護
１２～１３	７．精神状態が慢性的な経過をたどる対象のセルフケアを促す看護 （1）睡眠の援助 （2）意欲低下のある患者の看護（3）不安が強い患者の看護
１４～１５	８．精神障害をもちながら地域で暮らす人を支える看護 （1）ケアマネジメント（2）アウトリーチと多職種連携 （3）複合的な問題を抱えた長期入院患者の退院への支援
評価方法	筆記試験・授業態度
テキスト	系統看護学講座　専門分野　精神看護学（2）　精神看護の展開　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）

事前学習あり

科目区分・科目名	専門分野：精神看護学援助論Ⅲ
授業形態	講義・演習
履修年次・時期	２年次　後期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員 非常勤講師（＊）

科目目標： １．精神障害をもつ対象の看護展開に必要な理論が理解できる
２．自己洞察と他者理解の意義を理解できる。
３．事例を通して精神障害を持つ対象の看護が展開できる。

授 業 計 画

回	**内　　容**
１～３	１．精神科で使われるセルフケア理論 （1）ヘンダーソン（2）オレムーアンダーウッドモデル （3）双極性障害をもつ患者の看護（4）発達障害をもつ患者の看護
４～５	２．患者の持てる力に注目した援助 （1）ストレングスモデル（2）リカバリー・エンパワメント （3）アルコール依存症の患者の看護（4）摂食障害をもつ患者の看護
６～８	３．自己理解と他者理解 （1）プロセスレコード
9～15	４．看護過程の展開 （1）統合失調症患者の看護過程
評価方法	筆記試験、成果物
テキスト	系統看護学講座　専門分野　精神看護学（2）　精神看護の展開　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）

科目区分・科目名	専門分野：看護管理
授業形態	講義
履修年次・時期	３年次　前期
単位数（時間）	１単位（１５時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	非常勤講師（＊）

科目目標： １．看護管理の目的と機能を理解できる。
２．看護マネジメントの基礎を理解できる。
３．組織の一員としての看護師の役割・行動を理解できる。
４．看護職のキャリアマネジメントについて理解できる。

授業計画

回	**内　　容**
１	１．看護管理の概念
２～３	２．看護マネジメントの基礎的知識 （１）諸制度（医療制度、看護制度） （２）労働環境 （３）危機（安全）管理 （４）サービスの評価
４	３．看護師長の役割と業務
５	４．リーダー看護師の役割と業務
６	５．メンバー看護師の役割と業務
７～８	６．キャリア開発、人材育成
評価方法	筆記試験、成果物
テキスト	系統看護学講座　専門分野　看護の統合と実践（１）　看護管理　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）

科目区分・科目名	専門分野：災害看護・国際看護
授業形態	講義
履修年次・時期	３年次　後期
単位数（時間）	１単位（１５時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	非常勤講師（＊）
科目目標： １．災害時における看護の役割とその実際を理解できる。 ２．国際社会における看護の役割と諸外国における保健・医療・福祉の課題について理解できる。	
授業計画	
回	**内　　容**
１～５	１．災害看護の目的と対象 ２．災害看護の実際 ３．災害時のこころのケア
６～８	４．国際社会の保健・医療・福祉における動向と課題 ５．看護における国際協力活動の実際
評価方法	筆記試験
テキスト	1　新体系看護学全書　看護の統合の実践２　災害看護　メジカルフレンド 2　新体系看護学全書　看護の統合の実践３　国際看護　メジカルフレンド
備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）	

科目区分・科目名	専門分野：医療安全
授業形態	講義　演習
履修年次・時期	３年次　前期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	非常勤講師（＊）

科目目標： １．医療安全の基礎的考え方と看護師の役割を理解できる。
２．組織における安全管理の仕組みを理解できる。
３．看護場面で起こりやすい医療事故と事故防止を理解できる。
４．安全な医療を提供する上で必要な感染対策を理解できる。

授業計画

回	**内　　容**
１	１．医療安全の基礎的知識
２	２．組織における安全管理の仕組み
３～１０	３．看護場面における医療事故防止の実際 （１）看護事故の概要 （２）診療の補助の事故防止 （３）療養の世話の事故防止 （４）共通する間違いと発生要因 （５）医療安全とコミュニケーション
１１～１５	４．安全な医療を提供する上で必要な感染対策 （１）感染の基礎知識 （２）職業感染 （３）職業感染への予防策 （４）感染経路と予防策
評価方法	筆記試験、成果物
テキスト	系統看護学講座　専門分野　看護の統合と実践（２）　医療安全　医学書院

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）

科目区分・科目名	専門分野　臨床看護実践
授業形態	講義
履修年次・時期	３年次　前期
単位数（時間）	１単位（３０時間）
担当教員 **（＊印：実務経験有）**	専任教員（＊）

科目目標： １．複数患者の看護ケアを実践する方法を理解できる。
２．看護ケアの実践中に起こる割り込み状況に応じた対応を考えることができる。
３．チームメンバーと連携が必要な状況の判断基準を考えることができる。
４．知識・技術を統合し、より臨床実践に近い状況下での看護技術が実施できる。
５．臨床で遭遇する倫理的問題を解決する方法を考えることができる。

授業計画

回	内　　容	看護技術到達度評価
１～３	１．複数患者の看護ケアの実践 （１）患者個々のケア計画の立案 （２）複数患者間のケアの優先順位を考慮した行動計画の立案 （３）事例を用いての演習	
４～７	２．割り込み状況に応じた対応 （１）割り込み状況 （２）割り込み状況に対する判断と対応 ３．割り込み状況に応じた対応の実際	
８	４．チームメンバーとの連携 （１）状況に応じたチームメンバーとの連携 （２）状況に応じたチームメンバーとの連携の実際	
９～１２	５．臨床実践に近い状況下での看護技術の実施	№２９　体温調節の援助 №４３　静脈路確保・点滴静脈内注射 №４４　点滴静脈内注射の管理 №５４　簡易血糖測定
１３～１５	６．臨床で遭遇する倫理的問題解決のプロセス （１）看護職に求められる倫理 （２）倫理的問題に気付く （３）倫理問題解決の方法（事例を用いての演習）	
評価方法	筆記試験、成果物	
テキスト	なし	

備　考（受講生にのぞむことや受講上の注意点）